

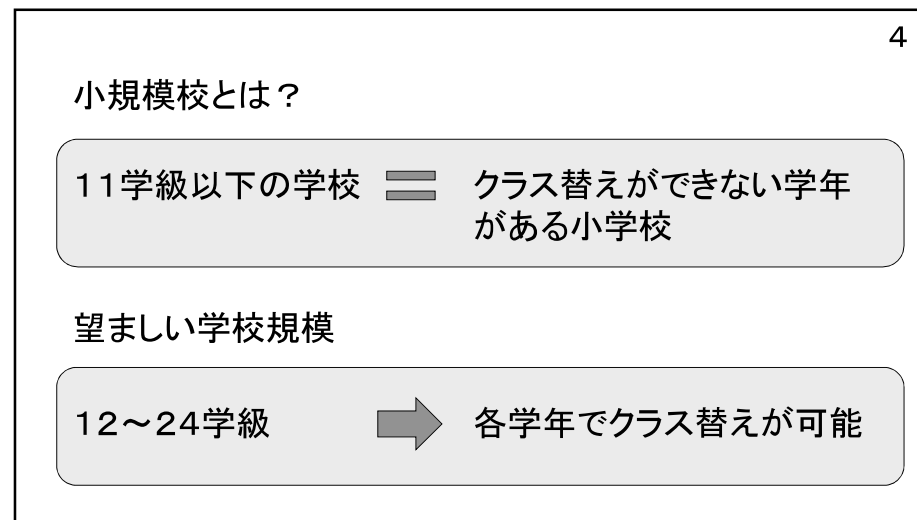
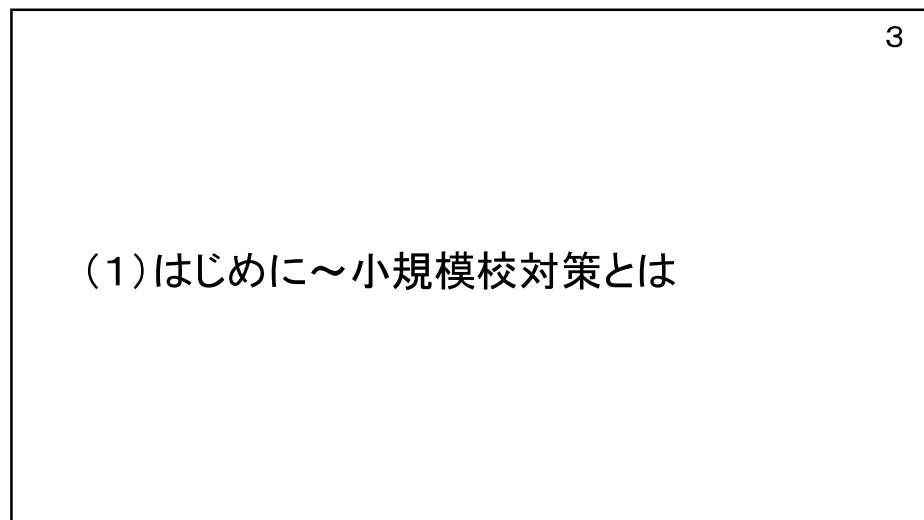
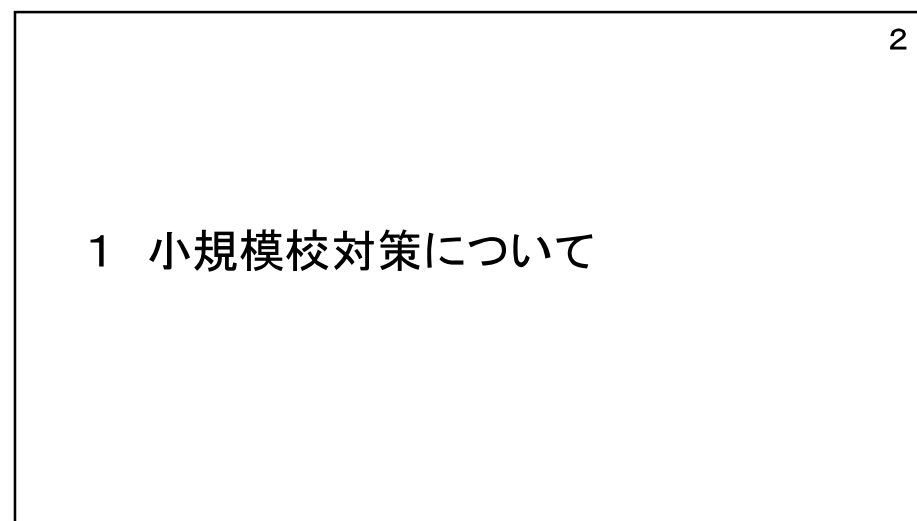
小規模校対策に関する 御園小・名城小 保護者・地域住民 合同説明会

日時：平成30年12月14日（金）19時～
平成30年12月15日（土）10時～
会場：名古屋市教育館講堂

1 資料説明

- （1）小規模校対策について
- （2）御園小・名城小の児童数等の現状について
- （3）統合の進め方など
- （4）今後について

2 グループに分かれての意見交換および質疑応答



小規模校対策とは？

- 学校の統合
または
- 通学区域の変更

名古屋市立小・中学校における小規模校対策に関する
基本方針(平成22年3月策定)

小規模校対策に関する実施計画(平成22年9月策定)

(2)小規模校対策の必要性

小規模校のよさ

- 一人ひとりの児童にきめの細かい指導が行いやすい
- 児童、教員、保護者を含めて互いの結びつきが深く
なり、家庭的な雰囲気がある
- 学校行事で、すべての児童に活動の場を与えやすい
など

小規模校の課題

- 児童の交友関係が固定化
- 社会性やコミュニケーション能力を伸ばしにくい
- 人間関係がこじれた場合、修復が困難
- 運動会、学芸会等の種目が限られ、教育効果が減少
- 体育や音楽の授業で、グループ分けなどに制約
- 教員数が少なく、バランスの取れた教員配置が困難
など

小規模校のよさ

小規模校の課題

小規模校のままでは解決できない課題

- 多くの仲間たちとの関わり合い
- 学級活動や学校行事などでの集団活動



学校統合により、一定規模以上の学級数の確保が必要

2 御園小・名城小の児童数等の現状について

(1) H30現在の学級数・児童数 (御園小・名城小)

御園小

H30.11時点

区分	1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			6年生			計		
学級数	1学級			1学級			1学級			1学級			1学級			1学級			6学級		
児童数	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	3	3	6	10	1	11	6	4	10	3	5	8	5	6	11	7	3	10	34	22	56

➡ 御園小は、各学年1学級の小規模校

➡ 1年生と4年生の人数は1ケタ

名城小

13

H30.11時点

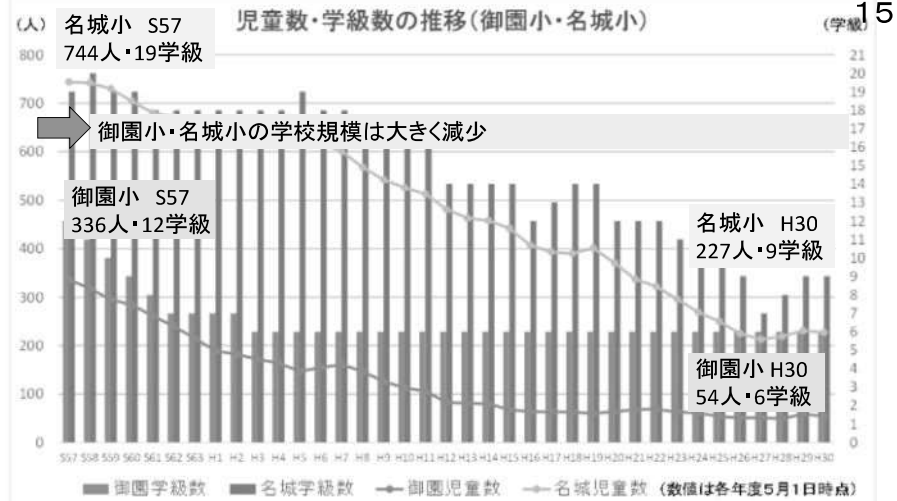
区分	1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			6年生			計		
学級数	2学級			2学級			1学級			1学級			1学級			2学級			9学級		
児童数	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	20	18	38	21	18	39	22	18	40	15	20	35	14	18	32	29	15	44	121	107	228

➡ 名城小は、3年生、4年生、5年生が1学級

➡ 学校全体では、9学級の小規模校

14

(2) 児童数・学級数のこれまでの推移
(御園小・名城小)



15

(3) 小学校入学前の子どもの数の見通し
(御園小・名城小)

16

17
H30.4時点

御園学区					
0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
30人	25人	15人	14人	12人	7人
↓	↓	↓	↓	↓	↓
1学級	1学級	1学級	1学級	1学級	1学級

名城学区					
0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
35人	33人	44人	21人	30人	33人
↓	↓	↓	↓	↓	↓
2学級	1学級	2学級	1学級	1学級	1学級

➡ 両校ともほぼ1クラスとなる見込み

18

- 御園小は、名古屋市内で最小規模の小学校
- 名城小も、半分の学年でクラス替えができない小学校
- 両校ともに、今後も小規模な状態が継続

↓

通学区域の変更では、小規模化は解消できません

↓

学校統合により、クラス替えができる規模を目指します

19

3 統合の進め方など

20

統合相手校を選ぶ際の考え方

- 同一中学校ブロック内で隣接する学校
- 統合後の学校規模が適正な規模となる
- 統合後の最長の通学距離が概ね2キロメートルなど

統合校の場所を選ぶ時の考え方

21

- 普通教室の数はどれくらいあるか
- 校地面積はどの程度か
- 学校の沿革はどのようなか
- 地域の特性はどのようなか
など

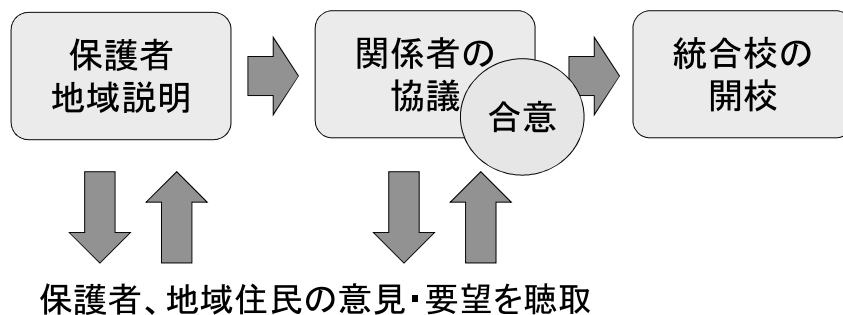
統合を進める上での留意点

22

- 児童への配慮 ➡ 事前の児童交流など
- 通学の安全 ➡ 警察などと連携し、安全を確保
- 統合で、新しい ➡ 校名、校章、校歌などを新しく学校を開設
- 統合後の学校 ➡ 防災拠点として配慮した上で、全市的な視点で活用 など

統合の進め方

23



4 今後について

24

御園小、名城小、それぞれの代表からなる、
統合に向けた検討会を設置

- 保護者代表(PTA会長など)
- 地域住民代表(区政協力委員長など)
- 学校現場(校長、教頭)

検討会での検討・協議内容

- 統合校の場所
- 通学の安全対策
- 新しい学校の校名、校章、校歌、教育内容
など

➡ 御園小と名城小の統合へ



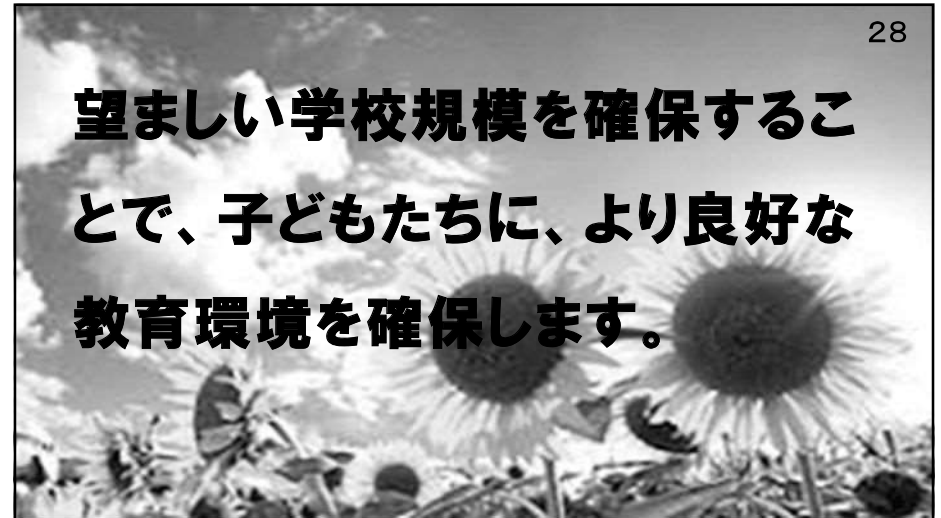
統合はいつごろできるのですか？

- 開校までに工事をするかどうか、開校準備の期間等によって、様々ですが、仮に名城小を統合地と想定した場合、最短で2020年(H32)4月です。



➡ 詳細は今後の検討会の中で協議していきます。

**望ましい学校規模を確保すること
で、子どもたちに、より良好な
教育環境を確保します。**



取り組みに対する主な質問と回答

Q 1 : なぜ学校統合が必要なのですか。

A 1 :

- クラス替えができない小規模な学校では、子どもたちの社会性が育ちににくいことや切磋琢磨しにくい等の課題があり、こうした課題を解消するために、子どもたちの数を一定の集団規模とするために学校統合を行います。

Q 2 : いつ、どの学校で統合をするのですか。

A 2 :

- 具体的な統合時期や統合場所は決まっていません。今後、保護者、地域住民の代表の方と学校統合に向けた話し合いを開始し、その協議の中で統合場所や統合時期等を検討したいと考えています。

Q 3 : 今後どのように保護者や地域住民と話し合い、統合を決定するのですか。

A 3 :

- 御園小と名城小、両校のPTAの代表、区政協力委員等の代表、校長先生等で、合同の検討会を設置して、統合に向けた話し合いを進めたいと考えています。
- 最終的に検討会から、統合場所や統合時期等についての合意書を教育委員会に提出していただき、統合を決定します。

Q 4 : 学校を選択できるようにして、他の学区から子どもが通えるようにして、子どもの数を増やすことはできませんか。

A 4 :

- 名古屋市では、学校が多く、地域の組織や活動に支えられており、通学区域が地域活動の単位となっています。
- 子どもが健やかに成長し、社会性を身につけていくためには、家庭、学校、地域の協力が不可欠であるため、今後も現行の通学区域を維持して、地域全体で子どもを育む教育を実施したいと考えています。

Q 5 : 統合することによるメリットは何があるのですか。

A 5 :

- 統合により児童数が多くなることで、学習、生活、行事の可能性が広がります。
- 学校生活全ての場面で、友だちや先生との関わりが多様になり、コミュニケーション能力等が高まると考えています。また、クラスの数が増えますので、教員の数も増えて、より多くの大人の目で子どもたちを見守ること等ができます。

Q 6 : 統合の目的は、学校運営に必要なお金や教職員の削減が目的ではないですか。

A 6 :

- 学校統合の第一の目的は、教育的な観点から子どもたちの教育環境を整えることです。統合をすることで、結果として経費削減につながっていることは否定できませんが、経費削減を第一の目的として行うものではありません。

Q 7 : 統合した場合、今後もクラス替えができる学校規模が維持できますか。

A 7 :

- 将来の小学生の数について、現在の幼児の数を基に試算した場合、統合後もクラス替えが可能な12学級程度の学校規模は確保できるものと見込んでいます。

統合後の児童数、学級数の見通し（幼児人口等を加味した推計に基づく試算。特別支援学級は含まない。）

H30.5.1現在

H30		H31		H32		H33		H34		H35		H36	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
281	11	282	12	303	12	300	12	313	13	312	12	320	12

Q 8 : 統合に関する情報を逐一、知らせてもらいたいです。

A 8 :

- 本日の説明会の内容や、今後開催を予定している検討会の内容については、市のホームページで掲載する等、情報提供に努めてまいります。

Q 9 : 未就学児童の保護者の意見を十分に聞いてもらいたい。

A 9 :

- 未就学児童の保護者の方のご意見は、十分にお聞きしながら進めたいと考えており、メールやFAX等で教育委員会まで、ご意見をいただければと思います。

Q10：統合後に、児童数の減少により、もう一度統合を検討することはありますか。

A10：

- 学校統合は、児童、保護者、地域の人々の理解と協力の積み重ねによって行われる大変大きな事柄です。統合後、将来的に児童数が減少すること考えられますが、再度の統合を行うことは慎重に検討する必要があると考えています。

Q11：小規模校にもよさがあるのではないですか。

A11：

- 小規模校ではクラス数や児童数が少ないことから、児童の個性や能力に応じた丁寧な指導を行うことができ、児童、教員、保護者を含めて、互いの結びつきが深くなるため、家庭的な雰囲気があるといったよさもあります。
- しかし、小規模校にはクラス替えができないため、児童の序列化や人間関係が固定化される等、小規模校のままでは解決することが難しい、学校の規模そのものが原因となって起きる課題があります。
- 小規模校が抱える課題を解決し、児童にとってよりよい教育環境にするため、一定規模以上の学級数を確保することが必要と考えています。

Q12：統合により通学距離が延びるので不安です。何か対策は取るのですか。

A12：

- 登下校時の交通安全や不審者対応のため、警察や土木事務所等と連携して、学校の安全対策や家庭地域との協力による安全確保に努めます。
- なごや小学校の統合事例では、通学路への注意標示や自転車専用レーン等の設置や、新校舎への通学練習会の実施、PTAや地域の方々による登下校の見守り活動等の取り組みを行っています。

Q13：統合した場合、区政協力委員や消防団等の地域組織も統合されるのですか。

A13：

- 統合後の地域組織をどのようにするかは、話し合いによりますが、これまでの事例では、学校は統合しても区政協力委員や消防団等の地域組織は統合せず、従来の地域組織のままで活動が続けられています。

Q14：学校は避難所ですが、跡地となった学校は売却されてしまうのでしょうか。

A14：

- 統合後の学校跡地の活用については未定です。ただし、小学校は地域の防災拠点ですので、地域に必要な機能に配慮しながら、有効活用を全市的な視点で検討してまいります。
- これまでの統合事例では、学校跡地は、避難所としての機能を確保してきています。

Q15：子どもたちが新しい友だちや環境に慣れるかが心配です。

A15：

- 統合の変化を少しでもスムーズにするため、例えば、統合する学校同士で事前に子どもたち同士の交流を行うことや、統合後の学校に子どもたちのことをよく知っている、統合前の教員をバランスよく配置する等の配慮をしています。

Q16：統合した場合、学校の校舎を工事するのですか。

A16：

- 統合した場合に学校を工事するかどうか、詳細は未定です。今後、保護者や地域の方との話し合いの中で検討します。
- 工事を実施する場合は、子どもたちの安全を第一に考え、学校生活への影響が可能な限り少なくなるよう、工夫しながら進めていきます。